

フジコーの現状と成長戦略



株式会社 **フジコー**

東京証券取引所マザーズ【証券番号 2405】

<http://www.fujikoh-net.co.jp/>

2012年2月

1. 会社概要



【会社概要】（平成23年6月期末 現在）



設立（登記）	1974年2月（創業1972年3月）
本社所在地	東京都台東区駒形二丁目7番5号 前川ビル5階
事業内容	建設系リサイクル事業／食品系リサイクル事業／環境事業
資本金	2億1,107万円
売上高	17億 340万円
経常利益	4,201万円
従業員数	89名
関係会社	(株)遊楽ファーム……有機農産物の生産販売 農作物栽培試験 有機飼料による畜産経営 有機肥料及び飼料の製造販売

■ 建設系リサイクル事業

首都圏近郊の廃棄物処理会社、ハウスメーカー、工務店等並びに運送業、倉庫、小売業、工場等からの委託を受け、木くず、紙くず、廃プラスチック類、がれき類等の産業廃棄物及び一般廃棄物を当社が保有する施設において、発電、焼却、破碎、リサイクル処理を行っております。

■ 食品系リサイクル事業

スーパー、レストラン、食品加工工場、デパート、ショッピングセンター、ホテル等からの委託を受け、食品廃棄物のうち、リサイクルが可能な食品循環資源である産業廃棄物及び一般廃棄物を当社が保有する施設において、発酵分解による堆肥化、メタン発酵による発電、乾燥及び乳酸発酵による飼料化処理を行うとともに自社養豚農場での肥育、食肉の販売を行っております。再生堆肥の品質向上を目的として、農地での栽培試験及び農作物の生産販売を(株)遊楽ファームにて行っております。

■ 白蟻解体工事

ハウスメーカー、工務店等からの依頼により住宅、アパート等の解体工事、白蟻予防工事の見積調査及び施工を主として行っております。あわせて、リフォーム会社からの依頼により、既存住宅の白蟻防除工事、家屋害虫の駆除工事の施工等を行っております。

住宅の害虫防除・白蟻駆除工事からスタート

白蟻の新築工事受注に向け、解体工事を開始

解体工事の廃棄物処理を目的に廃棄物処理業を開始

事業拡大に向け食品リサイクル事業を開始

CO2の削減と適正処理、高収益を目的に発電事業を開始

建設系、食品系、一般廃棄物のリサイクル事業

『住まいと環境』を守る

当社では、住宅を木材害虫や衛生害虫から守り、自然界では昆虫類と共存することを理念としました。時代とともに変化し、現在では、里山の保護や廃棄物による環境破壊の防止も追加しております。

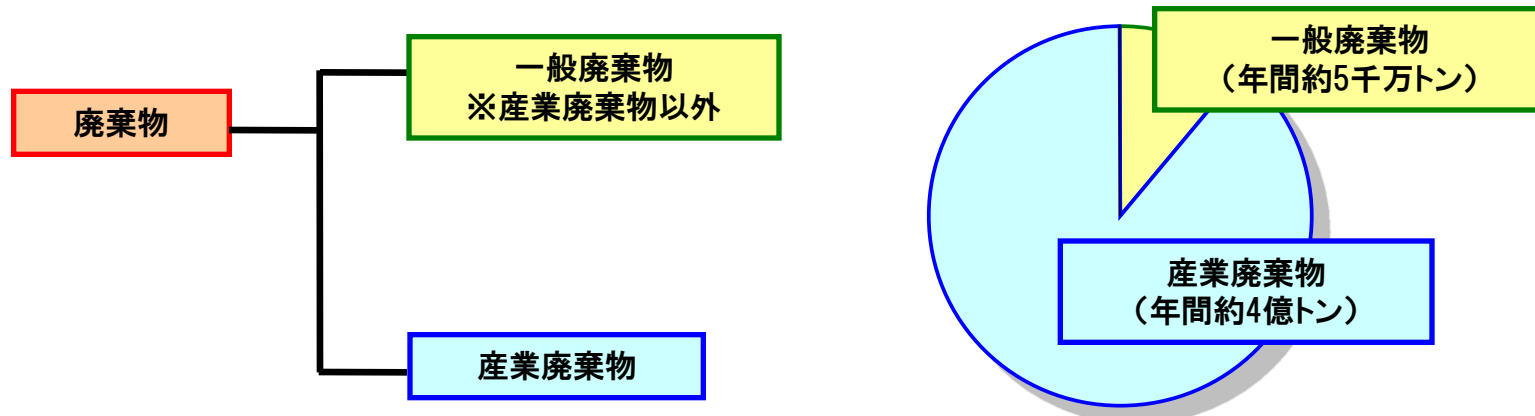
**建設系リサイクル事業の経験を生かして
食品系及びバイオマスリサイクル事業の拡大**

**新技術の開発によって、廃棄物を
エネルギー資源として活用する事業に注力**

2. 事業環境の概要



【廃棄物処理業界について】



産業廃棄物

- | | |
|--------------|-------------------------------------|
| 1) 燃え殻 | 12) ゴムくず |
| 2) 汚泥 | 13) 金属くず |
| 3) 廃油 | 14) ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず |
| 4) 廃酸 | 15) 鋳さい |
| 5) 廃アルカリ | 16) がれき類 |
| 6) 廃プラスチック類 | 17) 動物のふん尿 |
| 7) 紙くず | 18) 動物の死体 |
| 8) 木くず | 19) ばいじん類 |
| 9) 繊維くず | 20) 上記19種類の産業廃棄物処理したもの |
| 10) 動植物性残渣 | 21) 1～20の廃棄物、航行廃棄物、携帯廃棄物を除く輸入された廃棄物 |
| 11) 動物系固形不要物 | |

1. 産業廃棄物処理業者数(全国)(廃掃法第14条許可)

①収集運搬業許可 ⇒ 270, 164(件)(営業実数不明)

②処分業許可 ⇒ 埋立処分場 1, 000社前後
中間処理場 10, 000社前後

2. 産業廃棄物処理施設許可数(廃掃法第15条許可)

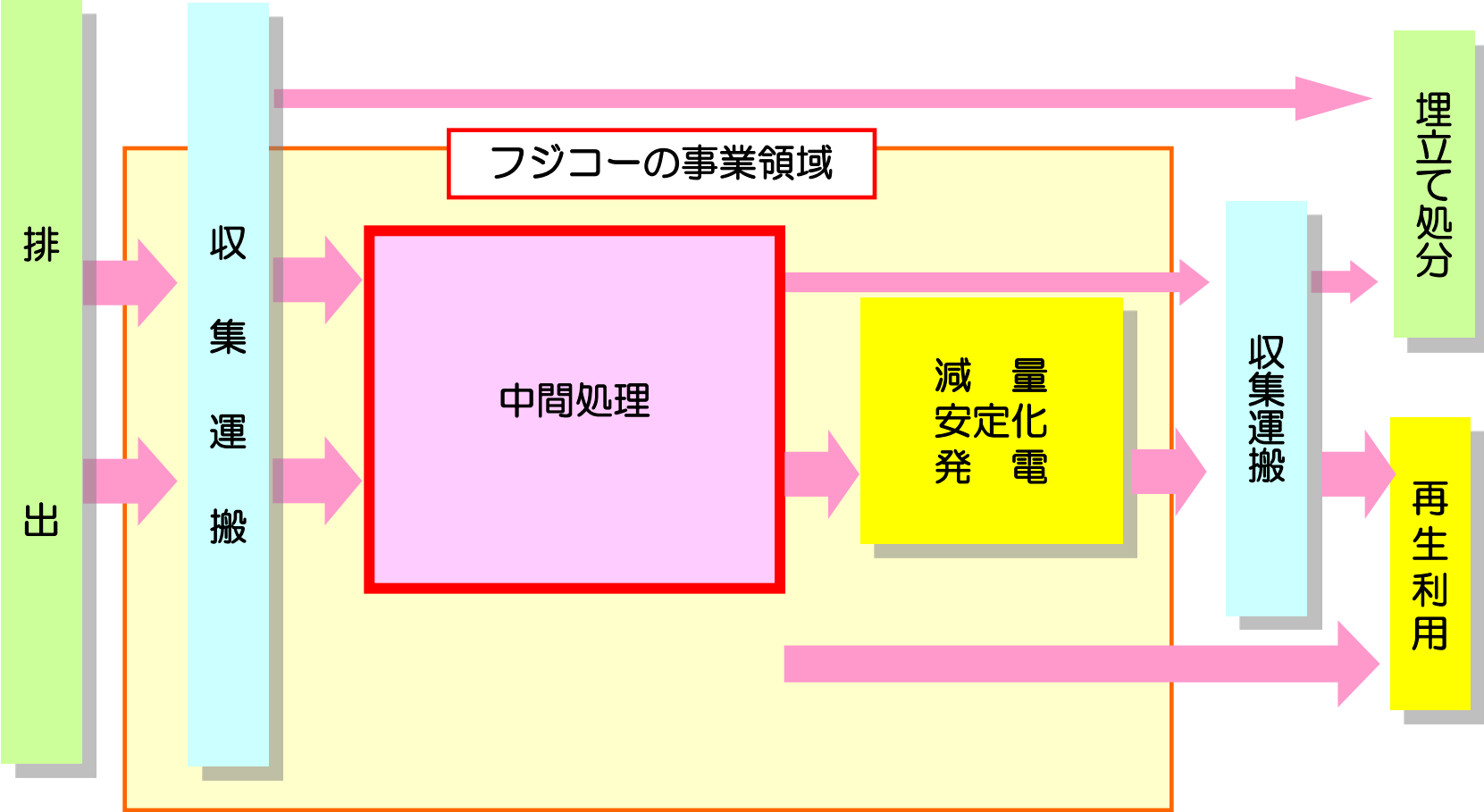
2008年度 埋立処分場 ⇒ 2, 253施設

中間処理場 ⇒ 19, 444施設

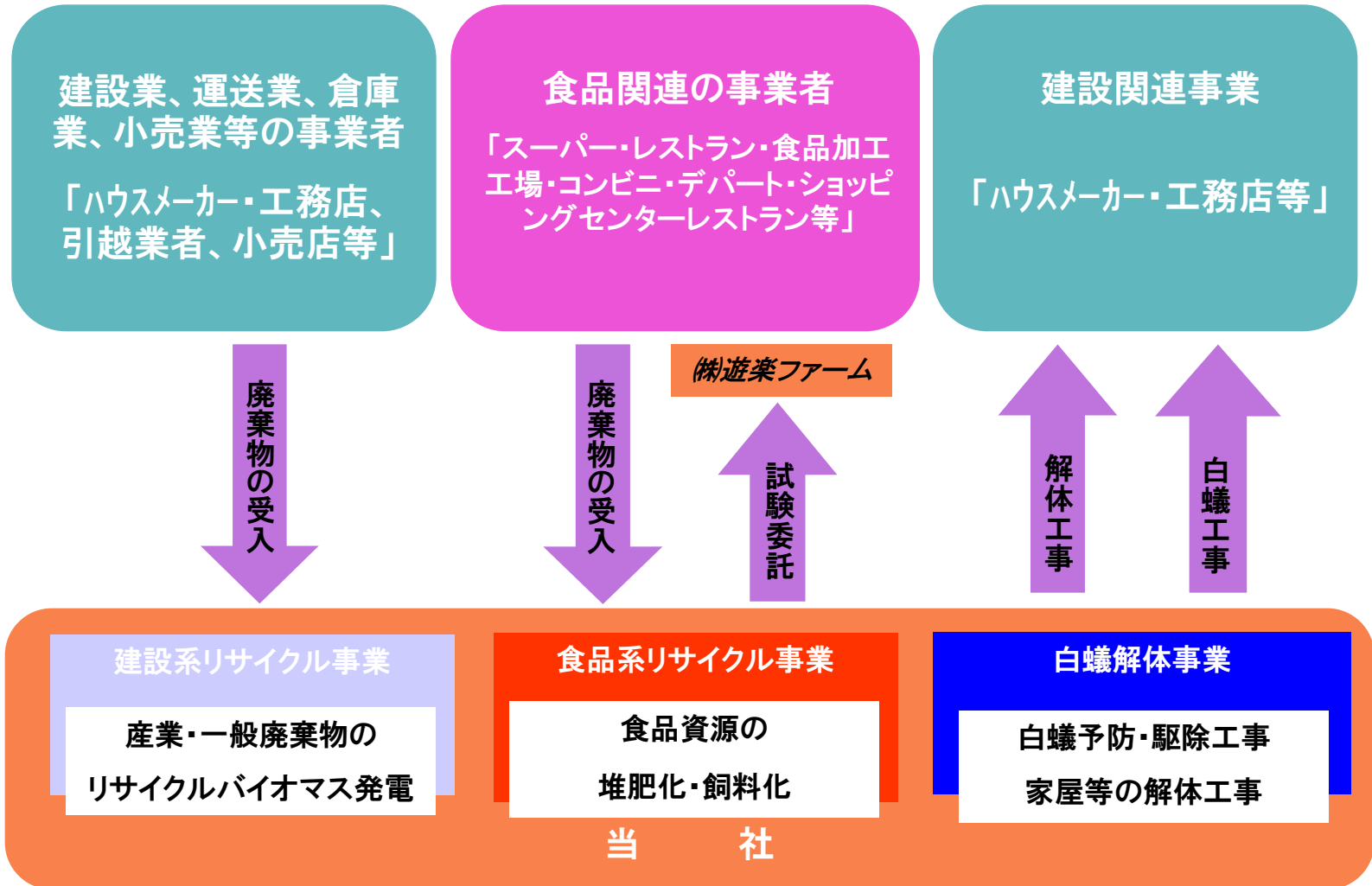
(他社の廃棄物を受入れしない、自社施設含む)

環境省統計資料HPより抜粋(平成20年4月1日現在)平成22年11月4日発表

【廃棄物処理の流れ】



【当社事業の流れ】



【当社の特徴】

・許可品目が多い(民間では少ない一般廃棄物処分業許可)

・取扱い廃棄物の多様化(建設、食品工場、製造業、飲食等)

・創業時から社会的に意義のある事業活動

・最新鋭の処理施設と技術導入 「信頼と安心感」

・食品リサイクル事業のパイオニア 「農業との連携」

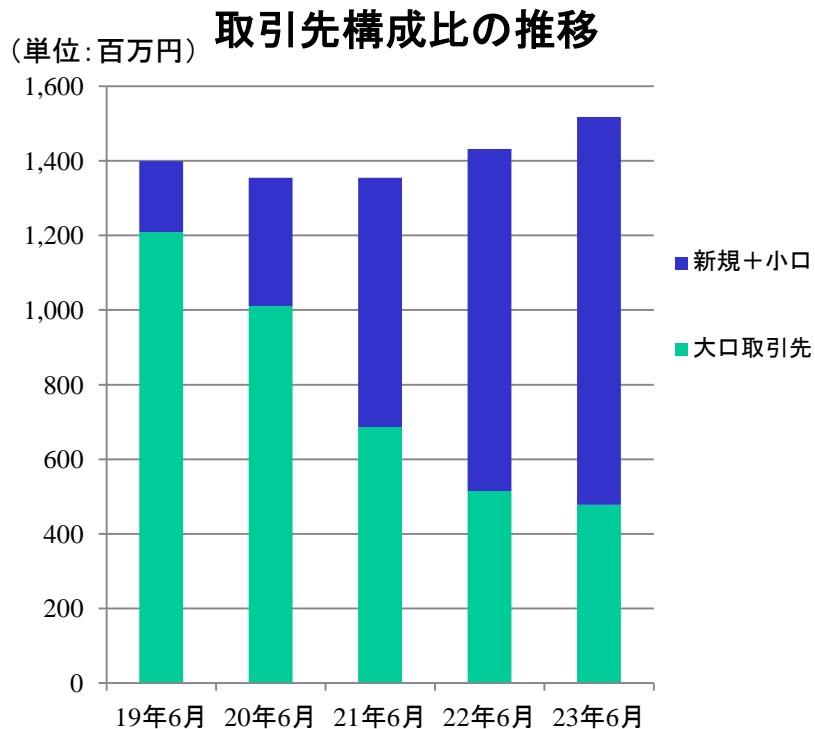
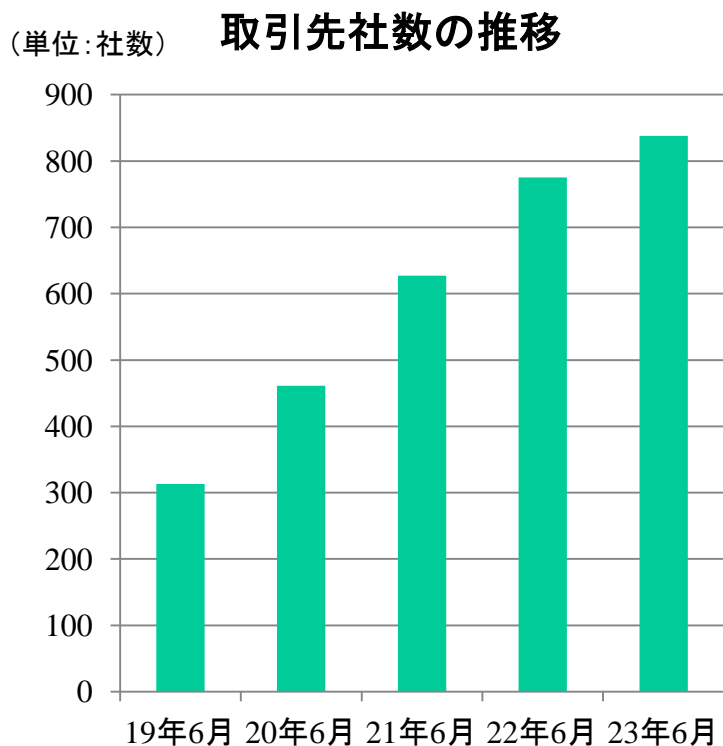
・廃棄物処分業としてのバイオマス発電 「収益と環境」

3. 第38期(2011年6月期)のトピックス



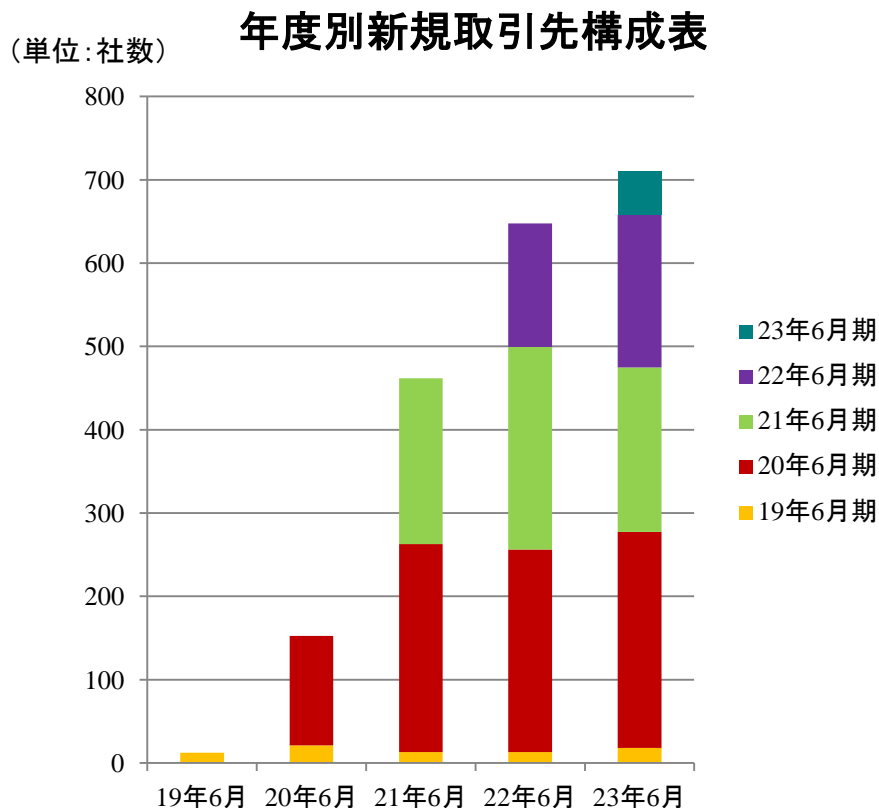
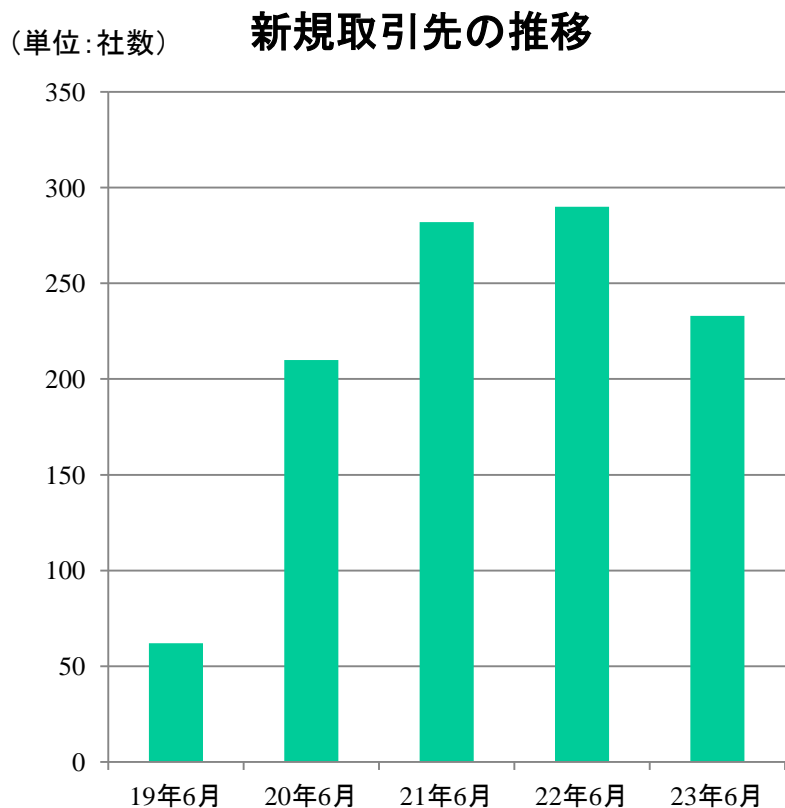
【取引先社数の拡大】

各取引先、取引先業種への依存度を軽減することにより、安定した収益の確保が可能となります。また、受入時のサービス体制の向上により新規取引先の継続率向上に取り組んでおります。



【新規取引先の拡大】

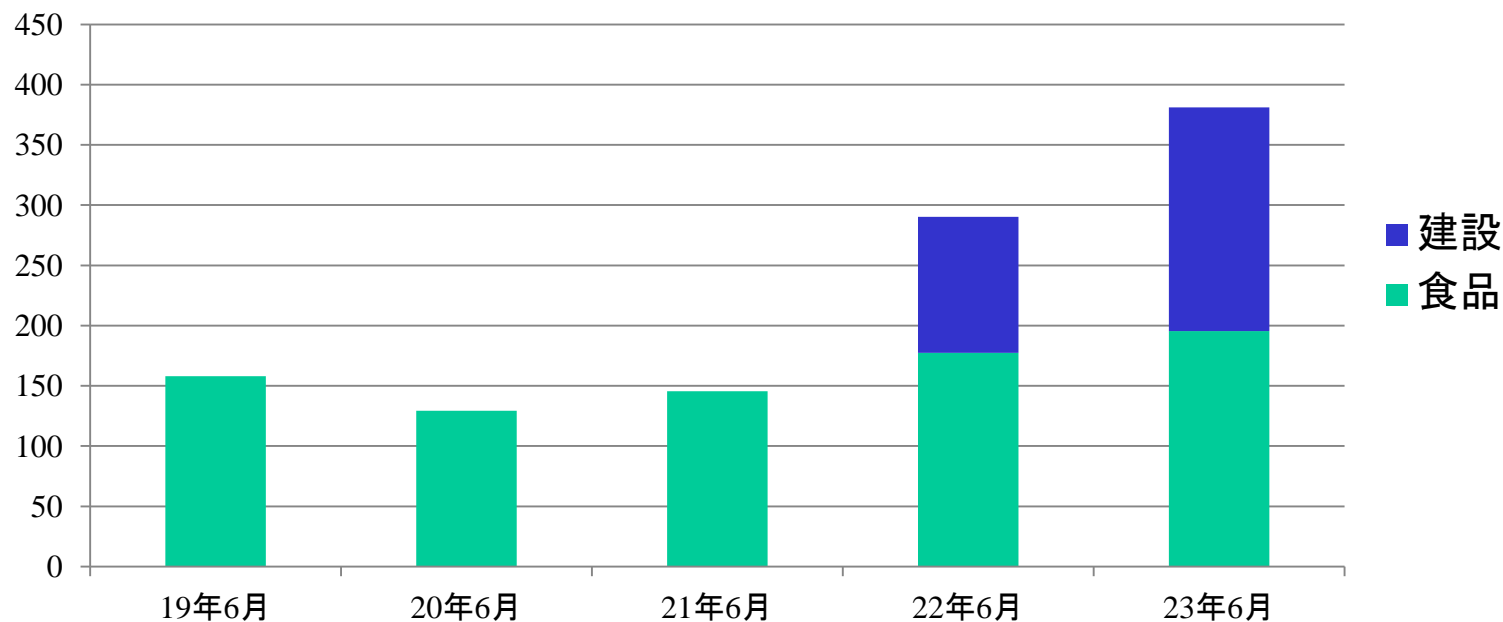
各施設の稼働率を向上させることにより、効率的な運営を目的として、新規取引先の拡大に取り組んでおります。



【一般廃棄物の受入強化】

建設系廃棄物は発生量の減少により価格競争が発生し、受入単価が変動しておりますが、一般廃棄物は処理施設が少ないため、受入価格が安定しておりますので、受入強化に取り組んでおります。

(単位:百万円) セグメント別 一般廃棄物売上高の推移

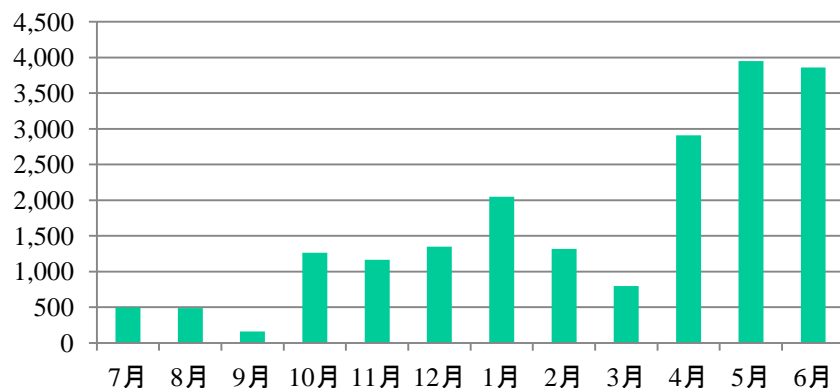


- ① 株式会社ファームネットジャパンとの業務提携
- ② ダチョウの肥育試験開始

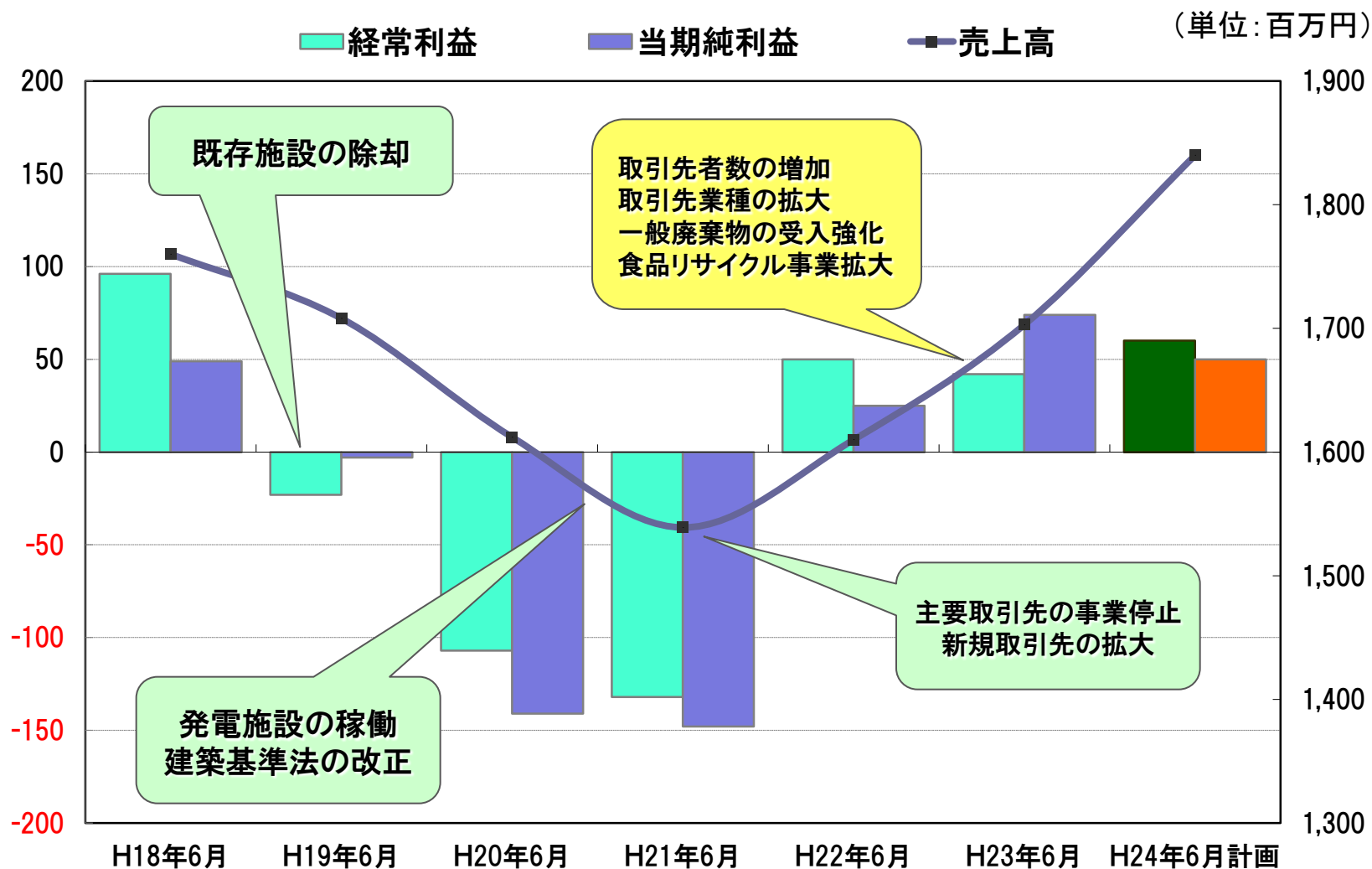
リキッドフィードの外部販売と養豚事業の収益改善

乾燥飼料、リキッドフィードに加え発酵飼料の開発

(単位:千円) 銚田ファーム 売上高の推移



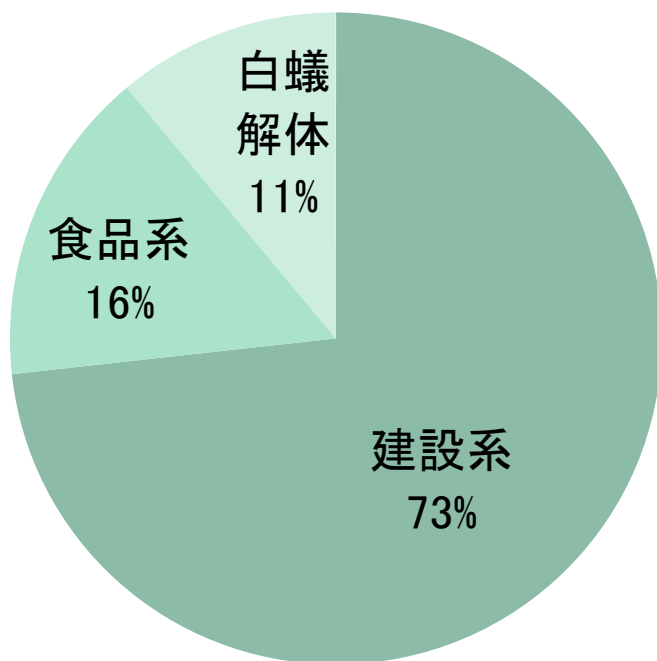
【決算ハイライト】



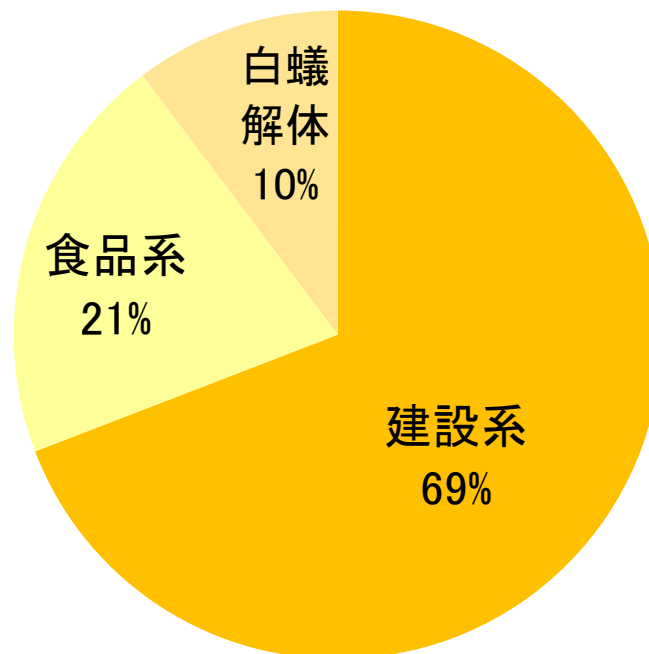
【セグメント別の構成割合】

・ 平成23年6月期(2011年6月期)損益実績

売上高



売上総利益



4. 鉾田ファームの概要



リキッドフィードによる養豚事業

食品リサイクル事業の拡大に向けて

- ・ 平成24年6月期の出荷売上計画

- 平成23年7月～12月 50頭平均/月×6ヶ月＝300頭
- 平成24年1月～6月 150頭平均/月×6ヶ月＝900頭
- 売上計画 1,200頭×25,000円＝3,000万円

- ・ リキッドフィード製造による原料受入売上

※ 養豚事業で肥育豚に給餌する飼料は食品循環資源を加工したリキッドフィードを使用

- 売上計画 600頭×12kg×20円×365日＝5,256万円

【鉾田ファーム 正面全景】

FUJIKOH



【リキッドフィード受入タンク】



リキッドフィード(液状飼料)

【自動給餌装置ライン内部】



【餌箱・オガコ】



【ストール】



【子豚・分娩】



5. 取り組みと成果



・建設廃棄物が減少傾向である市場環境において



・経常的な黒字計上が可能な体制を構築することに注力

- ・販売管理費・売上原価の削減を徹底
- ・取引先社数の増加による受入数量の安定化
- ・取引先業種の多様化等への取り組みを強化



・取引先社数の大幅増加による、受入数量、売上の安定化

・一般廃棄物の受入強化

・製造業・運送業等 非建設系の取引先の増加



・安定的な受入数量を確保 各施設の稼働率向上

・需要の増加が見込まれる食品リサイクル事業の強化



・リキッドフィード(液状化飼料)の研究・豚の肥育事業の取り組み

6. 配当の状況と株価の推移



・配当の状況

- ・前期実績(平成23年6月期) ※株式分割後に置き換えております。

継続的な黒字化により増配

期末配当金 1株当たり 5.0円

- ・当期予想(平成24年6月期)

収益の改善傾向により増配

期末配当金 1株当たり 6.0円

【配当の状況と株価の推移】

・株価の推移 平成24年2月9日終値 348円



7. 今後の取り組み



【今後の事業拡大に向けた課題】

・資源としての廃棄物利活用が促進

金属くず・非鉄金属・廃プラスチック類・木くず・その他

・バイオマスの資源化

温室効果ガスの削減を目的とした代替燃料・肥料・飼料

・廃棄物のエネルギー活用

固形燃料・液化燃料

・新たに開発される新技術を活用 液化技術他既存技術の応用

・環境分野における事業性の確立 廃棄物処分受託料金の活用

事業規模の拡大 収益構造の強化 優位性の確立

・非建設系廃棄物の受入強化

- ・価格競争に巻き込まれない受入体制
- ・少量・少ロットの排出事業者を開拓
- ・一般廃棄物の受入拡大
- ・食品リサイクル事業との連携による受入品目の拡大

・食品リサイクル事業の拡大

- ・農業、畜産との連携による事業の拡大
- ・自社ファームの安定化による二次製品の販売拡大
- ・ファームネットジャパンとの業務提携による飼料の販売拡大
- ・発酵飼料の開発による受入数量の拡大

【資料取扱上の注意】

本資料に記載されております当社の今後の業績に関する見通しおよび事業環境につきましては、現時点で入手可能な情報を基に当社が独自に予測したものであります。

そのため、当社の内部要因や、当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因により、当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しを修正する可能性がありますので、見通しの達成を保証するものではありません。

【本資料・IRに関するお問い合わせ先】

株式会社フジコー

経営企画室 IR担当

清水 周二

TEL : 03-3841-5431 Fax : 03-3841-5371

mail : ir@fujikoh-net.co.jp

【メモ】

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....